

平成28年度第2回幌延町総合教育会議 議事録

1 日時 平成29年3月16日(木) 午前11時35分～午後0時10分

2 場所 幌延町役場庁舎2階 大会議室

3 出席者

(構成員)

町長 野々村 仁

教育長 木澤 瑞浩

教育委員 番坂 啓介

教育委員 尾内 幸男

教育委員 澤谷 敦美

(事務局)

総務財政課長 飯田 忠彦 教育次長 伊藤 一男

総務G総務係長 梶 淳 総務学校G主幹 田村 浩希

総務G主事 佐藤 愛香里

4 内容

○町長

それでは、皆様おつかれさまでございます。

平成28年度第2回目の幌延町総合教育会議を開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、これまでの総合教育会議とは少し趣向を変えて、宗谷教育局の高杉課長から「小中連携・一貫教育推進事業とコミュニティ・スクール事業の取組」について、校長会を含め、教育関係者での情報共有を図ることを目的として、ご講演いただきました。

当町におきましても、現在の小中学校を取り巻く環境や、今後の教育・学校のあり方については、私自身、町長就任時から大きな関心を持っていたところであり、今回の講演を参考として、今後、皆様と学校のあり方についてご意見・ご議論いただき、今後の方向性を考えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

では、早速ですが、先ほどの講演を受けての意見交換に移らせていただきたいと思います。

それぞれご意見等ありましたら、忌憚のない意見をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員

先ほど校舎の話が出ていましたけれども、新たに建てるとなると大変なことだと思います。幌延中学校の方が、より耐震性がないということですが、幌延小学校は少し改修

をしましたが、小学校を増築したとしてもえらく手狭というのでしょうか、中学校の方はしばらくしたら人数が増えるということも見えてきている状況なので、地域の方々に早く理解いただいて、進めることは進めていくという方が良いのではないかと私は思いましたがね。東日本大震災の際には、学校に津波が来て、山の方に逃げればよかったのに、別の方に逃げたことで津波に遭ったということもあり、災害に強い学校づくりというものが非常に大事、避難所というのは学校が一番になってきますし、そういう風になると早めに考えていった方がいいのかなと思いました。

○町長

ありがとうございました。建物の件でご意見出ましたが、建物以外ではいかがでしょうか。

私は7人しかいない同級生の中から800～900人位の高校に進学した時には寂しい思いはしましたが、私自身コミュニケーションはそれほど得意ではありませんでしたが、「なんとかやれるんだな」という想いはありましたので、先ほどの講演でもありましたが、「学ぼう」という目標・努力があればしがみついていけるのかな、という気はしています。それらも含めて、今後、我々が幌延町の小中学校はどのような形が良いのかについてご意見ありましたらお願いします。

○委員

私も町長と同じ状況でしたが、なぜ（大規模集団への溶込み）できたかを考えてみると、友達が早くできたから。なぜ友達ができたかと考えると小中学校を通して友達の作り方が自然と身に付いていたので、知らない学校へ行っても知らない子とすぐに友達になれて、友達ができると気持ちがとても楽になりました。

○委員

小中学校時代のクラスメイトや指導してくれた先生の影響が大きいということでしょうか？

○委員

そうですね。また、小中併置校だったので、先生方は一つの職員室に、子どもたちも同じ校舎にいて、朝から晩まで一緒になって遊んでいたのも、そういうこともあって自然と身に付いたのかもしれない。

○委員

先生方の仕事の負担が大きいとかっていうことは？

○委員

先生は、数は少なかったけれど、複式学級だったからクラスに一人でした。片方の学年を先生が教えているとき、もう片方の学年は自習していなさいということでやっていましたけど、大した勉強はできませんでしたが、とりあえずはできていました。

○教育長

意外に困ったことで、自身の話をさせてもらおうと、大集団の中に入った時に勉強できなかったことが困りました。英語なんて全然わかりませんでした。そういう記憶が残っているので、私は学力には割とこだわっています。

今後建物のことを考えると、例えば災害に強い建物や小中一貫の9年間を進めるためにだとか、柱をきちんと決めて、「こういう目的で新しい学校を作る」ということ進めなければ、「ちょっとここが壊れてきたから」「人数が少ないから」という理由では、ちょっとまずいのかなと思います。

私としても答えはまだ出ていないですが、さきほどの講演を聞く限りでは、幌延の場合は義務教育学校にしてしまうとどうしても教員が少なくなる。間寒別の場合は違いますが。先生の数は来年度3人ですが、単純に言えば、1人の子どもを教えるのに1人の先生と考えた場合で、1日6時間×5日間＝週30時間に対し3人の先生の場合、1人の先生は1週間当たり10時間ということを考えると、1日に1時間40分（50分×2）授業を教えるだけで、あとの時間はフリーということになります。ただ、免許外の勉強をしたり、校務をしたりするので、暇とか忙しいとは一概には言えませんけれど。ただし、例えば間寒別の場合には中学校の先生が、音楽や美術専門であれば、下の学年（小学生）に教えに行く。また、今は配置されていませんが、英語の先生が配置されているのであれば、1年生から6年生までの授業にALTと一緒に教えるとか、そういうメリット、自由に勉強を教えるという風にもおさえることができると思います。

○町長

どういうことをするかということについては、教育長の話にもありましたが、どういうことを柱に据え、それが充実するように建物も含めてどうしなければいけないかを一緒に考えていくべきという話だという気がしました。

コミュニティ・スクールを作るにしても、何にしても協議委員が必要。

○教育長

幌延町にも評議会があります。幌延にも間寒別にも。本町の特色としては、小学校・中学校で一部委員が重複しているところです。

○町長

それは、関連性や連携を持てるようにということですか？

○教育長

はい、そうです。先ほどの講習を聞く限りでは、一つ設置すればよいということは、先生方が協議会を通じて交流できるというのがいいなと感じました。既にコミュニティ・スクールをスタートしたところでは、委員さんばかり多くて過半数以上の人数が集まらないなど、会議を開くこと自体に手間がかかっているということで、先ほどの講習

の話によると、現在の組織体をそのまま移行しても良いということであれば、組織体を編成するという点に関しての苦労はそれほど多くないのではと感じました。

○委員

組織は変えなくて良いということで、責任は明確になってくるので、良いのかもしれないですね。

○町長

問寒にも幌延にもそのような組織を作ったということであれば、委員の方々から一段下りて運営協議会の委員さんを含めて色々な会をできるようになると話が浸透し、そこからPTAにつながってという過程になるのではないかと思います。

○委員

変な話ですが、このような時代になってくると、本町のような小学校・中学校各1校という状況は非常にやり易いのではないのでしょうか。大きいマチほど大変なのかもしれないですね。

○教育長

前に聞いた話では、横浜かどこかの大きいマチでもコミュニティ・スクールを取り入れているそうです。

○副町長

先ほどの講演でもありましたが、小学生の時にどのように育ってきたかということ、中学生の先生方は生徒の小学生時代を見ていないから全然わからないので、その時代が見えるようになるということはすごく良いのかなという感じがしました。多くの先生に逢えるということもありましたが、たしかに小・中が一緒だと先生の数も多くなるので、私も問寒別小中学校出身ですが、中学生になっても小学校の時の先生が声をかけてくれるなど、小学校時代の先生にも助けられたなという面も経験しているので、子どもの教育面からするととても良いのではないかという気がします。ただし、学校が別々だとそういかないのかもしれないですね。先ほど教育長も話していましたが、もし仮に学校を新しくするにしても、事前に学校の運営方針・経営方針のようなものをしっかり議論したうえで、そのコンセプトに合ったものにしていかなければ、やはり先に施設ありきだとうまくいかないのかなという気がしています。

○町長

10年くらい前に長野で特区として小中一貫に取り組んでいる学校を視察する機会がありましたが、その教員の方々に話を聞いた際には、全教員が一つの職員室の中で背中合わせにデスクを並べていて、小学校・中学校の別なく下校する子どもたちを見ることができ、中学校の先生は、小学校の時から同じ生徒を見ているので、各生徒の特長や状況を誰かに教えてもらわなくても知ることができるそうです。教師自身が、ある生徒

を担任することになったとしても、ある程度自然と見えてくるし、特段会議等をしなくても他の先生方と最小限の情報共有で対応できているという話をされました。

講演の中でも、体・健康・成長の面で小学4年生の壁という話がありましたが、教員の方からは、学校カリキュラムでも4年生の壁があつて、4年生から急にカリキュラムが変わり、中学1年生からまた変わるということ話を聞きました。その壁をなくすために、先生方が子どもたちの状態を見て、ケアができれば、全員とはいかないかもしれないが、引っ張っていくことができるのではないかと感じていました。その頃から小中一貫校というものは気になっていました。無理に一つの学校にする必要はないとしても、小中がより連携できるような一貫の教育の構図を作る必要がある方が良いのではないかという想いはありましたし、我々併置校で、大人のような中学3年生に手を連れられて家まで一緒に帰ってもらったという経験が、自分が中学3年生になったときに、誰かに指示されるでもなく、小さい子を連れて一緒に帰るということをする状態、兄弟の多い家では当然のことかもしれませんが、そのような情操的な教育面では良いところだろうと思います。悪いところとしてはいっぺんに学力が伸びるわけではないということでしたが、もう少し工夫すれば違う面は出てくるのかもしれませんが。全体を考えると、建物ありきで考えるのではなく、幌延町の子どもたちの教育を今後どうしていくのかという理念・柱をまず立てて、それを実現するためにどのような方法がよいのかをみんなで作り上げていくのが早いのではないかなと思います。

このことについての意見を、今後PTAの方、子どもを育てていく方、地域の方々から拾い集められるかということが課題のような気がします。その方向性自体を私の公約のように「こうしますから」と言えば早いかもしれませんが、それをしてしまうと「ありき」の話になってしまいます。それはしたくないという気持ちが私の中にあります。

○委員

ちなみに、今の学校評議委員の出席率はわかりますか？例えば会議をやっても人が集まらないような状況だったりするのでしょうか。

○事務局

学校の方で運営していますが、そのような話は聞こえてきてはいません。

○委員

会議は年に何回くらい開催しているのですか？

○教育長

2回実施しています。

○委員

私が心配しているのは、やはり地域の人達が集まって話をしてもらわなければならないので、そういう人達に出席してもらえるような工夫をしていかなければならないとい

う風に感じています。会はあるけど、人が来ないということではどうにもならない。特に今は地域の高齢化が進み、人自体少なくなり、そのような会に集まれる人が少なくなってきたという感じがするので、人集めも大変ではないかと思います。

○事務局

評議委員会を開催する際には、当然仕事をされている方もいるので、参加しやすい、できるだけ集まれるような日程で調整して、各学校単位で、夜に会議をするという工夫は行っています。

○町長

会議の参集の際に、教育委員会は関与しているのですか？

○教育長

関与していません、各学校の先生方にやっています。運営協議会には、教育委員会は入ってもよいとされています。実際のところ、他の町では、年度当初には学校の体制や経営方針、当該年度の特色ある教育、重点項目、年度末の評価の流れを説明しているところもあります。中身的には今の体制下でも大きく変わりありません。これまでは説明のみで参画という色合いは薄かったですが、今後は一委員として色々なことに関わっていくという意識的な部分も大きいのではないかと思います。

2月に開催した校長会では校長先生たちには、先ほどの講演でもありましたが学校運営協議会の設置が努力義務となることに加えて、平成32年度には教育課程が「社会に開かれた教育課程」となり、その時に制度を始めても全然追いつかないので平成29年度あたりから先生方はそのようになるということでやっていかなければならない、次の人に任せればよいという風にはならないので、来年度はコミュニティ・スクールや小中一貫校についても校長先生方に意見を聞きながら進めていきますのでよろしくお願ひしますということを伝えました。校長先生方も、学校の現状などについて整理をしなければいけないと感じていて、どのように進めていけば先生方にとっても一番良いのかですとか、様々な事例も知っているのしょうから、まずはそのような意見を聞いたうえで、早く進めなければいけないなと思っています。現状では、各学校、先生方と管理職の温度差もあり、スムーズにいく学校とそうではない学校があると思うので、その辺も踏まえながら進めていかなければなりません。

○町長

根底には地域と話をして柱を持つということが基本となるから、仮に先生方が変わったとしてもぶれないという利点がある。行政においても、総合計画や総合戦略などの柱があって、町長が変わろうとその柱がなくなるということはない。コミュニティ・スクールについても同様だと思います。

やはり、時期・期間が押し迫ってきているということについては、関係機関の方々に

も少しずつ話をしながら情報提供をしていくことに努めていただければと思います。

○事務局

補足ですが、本日講演・会議を通じて小中一貫についての話がありましたが、校舎分離型・校舎一体型・義務教育学校の3つのパターンがあります。例えば白糠町ですと、3パターン全てあります。平成30年4月にオープンする予定です。幌延町の場合でも考えられるのは、施設を建てて小中が一緒に入る方法、それと今の状態のままで、一貫教育を分離型で行う方法、あるいは小中一貫ではありませんが、例えば中学校の先生が小学校へ自身の専門科目を教えに行くという小中連携という形があります。

新築・増改築などに限った話をしますと、小中一貫ということであれば補助率が上がります。単なる新築・増改築などを行う場合だと補助率は3分の1ですが、例えば小中一貫にするために新築・増改築などを行う場合だと補助率は2分の1になる、というメリットはあります。ですので、別々に新築・増改築などを行うよりは、小中一貫のような形で考えた方が財源的なメリットは大きいということになります。

また、全道的な傾向・統計としては、小中一貫モデルケースということで15の地域が取り組んでいます。コミュニティ・スクールは絶対条件ではなかったにもかかわらず、コミュニティ・スクールについても併せて実施しているという状況ですので、小中一貫とコミュニティ・スクールについては、セットで実施していくのがやり易いというところなのだろうと思います。

あくまでも小中一貫というのは、ツールなので、小中一貫ありきではなく、例えば現在、問寒別は併置校、幌延は別々の学校ということで、今後地域ごとに協議のうえ、先ほど申し上げた3つのパターンのどれかで実施するのが良いと思われます。

○町長

事務局から補足説明ありましたが、行政の立場から言えば、義務教育学校になると、人が減ってしまうので、あまりそこは進めておりません。ただ、今後色々と選択できるということも踏まえて、皆様にお話ししていただければと思います。将来に向けてどのようなことが必要か、ありきではなく、現状も含めて柱を立てて、構築していければと考えています。

他になければ以上で第2回目の会議を閉めさせていただきます。

委員の皆様も、今後何か情報を入手されましたら教えていただければ助かります。

どうもありがとうございました。